

平成27年度第3回志木市社会教育委員会議録

平成27年9月28日（月）午後2時～3時30分
市役所3階302会議室

出席者 委員：齊藤奈都子、竹前榮二、宮原正幸、有馬隆江、西山真、
一ノ倉達也、小笠原順子、安部卯内、星野久江

（順不同、敬称略）

市：生涯学習課 松井課長 井上主幹 武井主査 松永主任

1 開 会

2 あいさつ 齊藤奈都子議長

3 協議事項

- (1) 平成27年度志木市社会教育関係団体補助金について
・ 事業費補助金について（資料1）

事務局より説明

前回の会議で、平成27年度志木市社会教育関係団体事業費補助金については、志木短歌会をはじめとする14団体について審議いただき、交付しましたが、エコシティ志木と田子山富士塚保存会の2団体から志木市社会教育関係団体事業費補助金交付申請がありましたので協議していただきたい。

（議 長） 今の説明で意見、質問があるか。

（委 員） 異議なし。

- (2) 第三次志木市生涯学習推進計画（前期）素案について （資料2）

事務局より説明

第三次志木市生涯学習推進計画（前期）素案では、第1章「策定にあたって」では、生涯学習の背景にあるものとの整合性を図っていく。

第2章「本市の生涯学習についての概況」では、市民アンケート調査を踏まえ、市民ニーズを反映していく。

第3章「生涯学習推進の基本方針」では、生涯学習の現状を踏まえ、「1いつでも、どこでも、だれでも学べるまちづくり、2学びをつなぐ、人をつなぐ、3地域の文化を未来につなげる」の3つの基本方針ですすめていきます。

第4章として生涯学習施策の展開では、第3章の基本方針に基づいてどうい

う施策を展開していったらよいか、皆さんの意見や今後行う市民アンケートの結果を踏まえて変わることになります。現時点で考えてみますと、「1 いつでも、どこでも、だれでも学べるまちづくり」(1) わかりやすい情報提供として、生涯学習情報のメール配信、グループ・サークル情報を充実、生涯学習情報スペースの充実、ホームページなど活用また、パソコン等を使用しない人に配慮した情報提供を考えている。(2) 生涯にわたり学ぶことのできる環境づくり、さまざまな学習機会の提供、一つの案として市民公募企画講座では市民の皆様からこんな講座をやったらどうかを企画を募り、すぐにはできないが翌年度の計画にいれ前年度に予算化して翌年度に講座をすることが出来るようにすれば定例の講座を実施するよりも自由度が増すと考えて載せた。

(3) 学習環境の充実については、これから、いろいろ調べて内容を検討してまいります。

2 「学びをつなぐ、人をつなぐ」では(1) 学んだことを生かしてまちづくり、学んだ成果を生かした活動をしたい方を支援する講座、ボランティア支援講座になります。拡充してまいりたい、市民のサークルやグループが主催する事業への支援。それぞれの担当者だけでは、やりづらいつきには行政が支援するという事業展開を考えている。

3 「地域の文化を未来につなげる」では、(1) 伝統文化を次世代に継承する事業として、文化体験道場や郷土芸能フェスティバルを引き続き行っていきたいと考えている。(2) として文化財の保護と活用したまちづくりでは、指定文化財を活用した事業。ここで今年度から田子山富士塚の修復工事が入りますので文化財を保存修復するというだけではなくていろいろ活用して生涯学習の事業を展開出来たら良いと考えている。

(議長) 今の説明で意見、質問があるか。

(委員) 第二次志木市生涯学習推進計画の期間は10年だった、第三次志木市生涯学習推進計画も10年か。

(事務局) 推進計画は前期5年、後期5年と5年ごとに計画を見直しを行い、発行する予定である。

(委員) 柳瀬川図書館でも、さまざまな事業を行っているの、問い合わせで記載してほしい。施設一覧を資料として載せているのはよいと思う。

(事務局) 確認して、記載するようにします。

(委員) 図書館などの事業にどれくらいの参加があるかの検証はどうなっているのか。

(事務局) 教育行政の評価を行い検証をしている。

(委員) 推進計画の検証はどのように行うのか。

(事務局) 事業の検証は事務事業の点検の機会で行う。この計画では事業の情

報の提示としたい。

(委員) 生涯学習関連施設はこの計画の期間で変わるのか。

(事務局) 福祉センターが総合福祉センターにはいる。

(事務局) 計画のタイトルについては、どうか。

(委員) いいのではないか。

(委員) アンケートの回答が少ない、そういう人をどのように参加してもらうかが課題となるだろう。

(3) その他

・特になし

4 閉 会